兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

兵庫県立美術館
プレスリリース
2018年1月

小磯良平と吉原治良

Koiso Ryohei and Yoshihara Jiro　Dividing Ridge of the Hanshinkan Modernism

1）小磯良平《自画像》1927年
油彩・布　東京藝術大学蔵

2）吉原治良《黒い帽子の自画像》1928年頃
油彩・布　大阪新美術館建設準備室蔵

本展のみどころ

○神戸を代表する洋画家で当館でも記念室を設けている小磯良平と、戦後の日本を代表する前衛美術集団、具体美術協会（具体）を率いた吉原治良のふたりを同時に扱う回顧展です。

○小磯・吉原ともに初期から晩年までの作品を、時代を追ってご紹介します。特別展として彼らを当館で大きく扱うのは、小磯は当館の前身となる県立近代美術館で開催した「没後10年　小磯良平展」（1998年）以来約20年ぶり、吉原は2004年に開催した「あの熱い時代が目を醒ます！結成50周年記念　「具体」回顧展」以来14年ぶりとなります。

○具象絵画の巨匠小磯と、抽象絵画のパイオニア吉原。かたや東京美術学校を首席で卒業、かたやほぼ独学で絵画を学びました。職業画家をきわめた小磯に対し、吉原は生涯にわたり家業の製油会社経営と画業の両立を果たした点など、非常に対照的なふたりですが、画家として活躍していた時代や地域はほぼ共通しています。そうしたふたりの対照性と類似性を考察します。

○彼らふたりを同時に扱った数少ない例として、1997年に県立近代美術館を含む阪神間4館で開催した「阪神間モダニズム」展があります。本展はそれから20年を経て、彼らふたりを生み出した神戸・阪神間という地域性をあわせて考察します。

○小磯と吉原の油彩画約160点に加え、資料類もあわせて展示します。

2018年3月24日㈯―5月27日㈰

開催趣旨

小磯良平（1903-1988）と吉原治良（1905-1972）は、ともに戦前から戦中、そして戦後にわたって阪神間を主な拠点として活躍した画家です。小磯は東京美術学校を卒業後渡欧し、アカデミックな西洋美術の正統な継承者をめざし、官展や新制作派協会にて類いまれなデッサン力を駆使した珠玉の人物画を数多く制作・発表し、日本を代表する具象絵画の巨匠として活躍してきました。一方の吉原は、家業である製油会社を経営しつつ、ほぼ独学で絵画の技法を習得し、戦前の海外の抽象絵画に影響を受けた前衛的な作品を二科会の九室会で発表、戦後は日本の前衛美術を代表する具体美術協会の主宰者として数多くの抽象絵画を手がけました。このようにほぼ同時代を地理的にきわめて近い位置において制作してきたにもかかわらず、彼らを同時に評価する機会はほとんどありませんでした。

しかし「同時代性」と「地域性」に着目してみると、小磯と吉原にはまったく対照的であると同時に類似性も認められます。ともに西洋美術に自らの創作の規範を求め、それを極限にまで推し進めることで同時代の日本の美術界に大きな影響力を与えたこと、戦後には、片や母校の東京芸術大学で、片や具体美術協会を中心とした組織で優秀な後進を数多く輩出したこと、また戦後にともに舞台美術を手がけたことなど、その画業には何かしらの共通点があります。

この展覧会は阪神間の生んだこのふたりのモダニストの足跡を、代表作を時代毎に「並置」することで、その対照性と類似性を明らかにしつつ、それぞれの画業を再確認するものです。

開催情報

特別展「小磯良平と吉原治良」展

会期：2018 年 3 月 24 日〔土〕～ 5 月 27 日〔日〕

休館日：毎週月曜日（ただし 4 月 30 日〔月〕は開館、翌 5 月 1 日〔火〕は休館）

開館時間：午前 10 時から午後 6 時まで
（会期中の金・土曜日は夜間開館、午後 8 時まで）
入場は閉館の 30 分前まで

主催：兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援：公益財団法人 伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興 亜、TKG Foundation of Arts & Culture、ネ ッツトヨタ京都
助成：一般財団法人 安藤忠雄文化財団
特別協力：大阪新美術館建設準備室、神戸市立小磯記念美術館、芦屋市立美術博物館

観覧料：
一般 1,300（1,100）円　大学生 900（700）円
70 歳以上 650（550）円　高校生以下無料
※（　）内は前売および 20 名以上の団体割引料金。70 歳以上は前売なし。
※主なチケット販売場所：JTB レジャーチケット（セブン - イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークル K・サンクス、ミニストップ）
コンビニ商品番号　前売券：0247970
当日券：0247971
※障がいのある方（70 歳以上を除く）は各当日料金の半額、その介護の方 1 名は無料。
※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。
※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料が必要です（本展とあわせて観覧される場合は割引あり）。

（1）1920 年代：初期の画業

東京美術学校に入学した小磯は洋画家の藤島武二に師事し、1926（大正 15）年の第 7 回帝展（帝国美術院美術展覧会）に《T 嬢の像》（当館蔵）で特選を受け、翌年同校を首席で卒業後、盟友の詩人竹中郁とともに1928（昭和 3）年からヨーロッパに向かいます。

一方の吉原は 1924（大正 13）に関西学院高等商業学部に入学、勉学のかたわら府立北野中学の同級生の紹介をきっかけに艸園会というグループに属し絵画制作に励みます。1928（昭和 3）年には洋画家上山二郎から東郷青児を紹介され、同年大阪朝日会館で初個展を開催するなど充実した日々を送りました。

ここでは絵画を描き始めたふたりの初期の作品を紹介します。

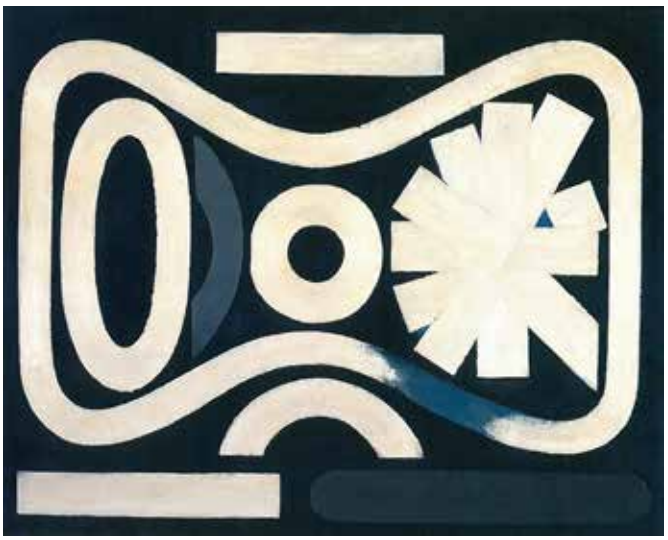
（2）1930-40 年代前期：充実と激動の時代

ヨーロッパから帰国した小磯は、日本における西洋絵画の正統な継承者をめざして、類いまれなデッサン力を駆使した珠玉の人物画を数多く描きました。しかしその高い技量は軍部の目に留まり、小磯はつごう 4 回にわたって従軍画家として戦地に赴き戦争画を手がけることとなりました。

一方の吉原は家業の製油会社の経営のかたわら、諸外国の美術の潮流をいちはやく入手し、シュルレアリスム的傾向から抽象絵画へと至る斬新な作品を数多く創作し、九室会という先鋭的な二科会グループで活躍しますが、軍国主義の日本で抽象美術は否定され、やむなく具象絵画制作へと向かいます。

ここでは画業のピークを迎えたふたりがそれぞれ当時の日本でどのように対応したかを検証します。

3）小磯良平《踊りの前》1934 年　油彩・布　京都市美術館蔵



4）吉原治良《作品3》1934 年　油彩・布　芦屋市立美術博物館蔵

（3）戦後－1950 年代前期：変革の時代

敗戦後の日本では、荒廃した文化の復興に芸術家や文化人が総力を挙げて結集しました。小磯や吉原もともに、少年少女雑誌の表紙絵や挿絵、図画工作の教科書の監修、舞台美術の制作などに取り組みました。それと並行して小磯は、戦争画制作で培った群像表現に活路を見出し、高揚する戦後の復興の気分をみなぎらせた作品を多く創作します。一方の吉原は戦争で失った人間性を取り戻すかのように、デフォルメされた少女や鳥といったモチーフを集中的に描きます。

ここでは戦後日本を象徴するかのようなふたりの対照的な作品を展示し、あわせて彼らが手がけた当時の雑誌や資料類を紹介します。

5）小磯良平《二人の少女》1946 年　油彩・布
神戸市立小磯記念美術館蔵

（4）1950-60 年代：暗中模索と後進育成のはざまで

戦後の美術界は、旧来の伝統的な価値観が根底から覆され、美術の大きな潮流はフランスからアメリカへ、また具象絵画から抽象美術へと変化していきます。そんな中、1950（昭和 25）年から母校の東京芸術大学の講師となり、後進の育成につとめるようになった小磯は、新しい潮流を自作に取り入れるべく、従来の画風からは一変して、幾何学的な線描や原色を多く用いた絵画を制作しました。一方の吉原は、自宅を訪れる若き美術家を結集して 1954（昭和 29）年に具体美術協会という前衛美術グループを立ち上げますが、若き後輩たちが手がける、主に同時代に世界的に主流であった抽象表現主義やアンフォルメル（不定形絵画）を彷彿とさせるむせ返るような抽象表現を前に、創作に苦しみます。

ここでは戦後の美術の潮流の中で、自作の傾向を変えるに至ったふたりの作品を展示します。

6）吉原治良《作品》1958 年　油彩・布
芦屋市立美術博物館蔵

（5）晩年：飛躍と成熟の時代と終幕

東京オリンピックが開催された 1964（昭和 39）年頃を境に、ふたりの作品はそれぞれ新たな展開を迎えます。小磯は抽象的な画面構成を自作から徐々に駆逐し、生来の穏やかな描写を生かして、静謐な人物画や静物画を数多く手がけます。最終的には東京・赤坂の迎賓館の対幅壁画で当代の風俗を記念碑的画面に展開する偉業として結実させました。一方の吉原は、混沌とした画面に円環のフォルムを紡ぎだし、それらは一連の「円」を扱った大作で、簡潔な色彩のコントラストと大胆なフォルムが唯一無二の個性となって結実しました。

ここでは彼らが晩年に手がけた作品を展示し、ともに最終的に到達した画業を振り返ります。

関連事業

■連続鼎談

①吉原治良編

4 月 22 日〔日〕14 時から（約 90 分）

出演：加藤瑞穂氏（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）、高柳有紀子氏（大阪新美術館建設準備室主任学芸員）、鈴木慈子（当館学芸員）

②小磯良平編

5 月 6 日〔日〕14 時から（約 90 分）

出演:辻智美氏（神戸市立博物館学芸員）、恵崎麻美氏（関西大学東西学術研究所非常勤研究員）、西田桐子（当館学芸員）

場所：いずれも当館ミュージアムホール（定員 250 名／先着順・友の会優先座席あり）

聴講無料（ただし展覧会観覧券もしくは半券が必要）

■学芸員による解説会

4 月 14 日〔土〕、5 月 19 日〔土〕いずれも 16 時から（約 60 分）

場所：いずれも当館レクチャールーム（定員 100 名） 聴講無料

「美術館の日」

2002 年 4 月 6 日に兵庫県立美術館が開館したのを記念して、4 月 28 日（土）・29 日（日）に、多彩なイベントを開催！

■学芸員による夜のガイドツアー（「美術館の日」関連事業）

4 月 28 日〔土〕18 時から（約 60 分） 当館 3 階「小磯良平と吉原治良」展入口前集合 参加無料（ただし要観覧券）

■ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日午前 11 時から（約 15 分） 場所：当館レクチャールーム（定員 100 名） 参加無料

7）田中千代学園芦屋校アトリエ開き・寄せ書きに描く吉原とそれを見つめる小磯　1952 年 7 月　写真提供：学校法人田中千代学園

小磯良平
〔こいそ・りょうへい
1903（明治 36）－1988（昭和 63）〕

神戸中山手通生まれ。1917（大正 6）年兵庫県立第二神戸中学校（現・県立兵庫高校）に入学、生涯の友となる竹中郁と親交を結ぶ。1922（大正 11）年、東京美術学校西洋画科に入学、藤島武二に師事。在学中の 1925（大正 14）年、第 6 回帝展に初めて出品、入選。翌年の第 7 回展には《T 嬢の像》が特選。1927（昭和 2）年同校を首席で卒業。1927 年より渡欧（1930 年まで）。帰国後の 1932（昭和 7）年、初の個展を神戸鯉川筋の「画廊」で開催。1935-36（昭和 10-11）年のいわゆる帝展改組に反旗を翻し、「新制作派協会」（現・新制作協会）を猪熊弦一郎らと結成。技術の高さを買われて従軍画家として戦地につごう 4 回にわたって赴く。1950（昭和 25）年、母校の東京藝術大学油画科に講師として赴任（1971 年まで）。1973（昭和 48）年、赤坂迎賓館の壁画制作の依頼を受け、翌年完成。戦前から戦後にかけて、一貫して具象的な人物画を得意とした。1983（昭和 58）年、文化勲章を受章。1988（昭和 63）年、兵庫県立近代美術館（現・兵庫県立美術館）に小磯良平記念室が開館。同年神戸で死去。1992（平成 4）年、神戸市に寄贈された油彩画、デッサン、アトリエの建物などをもとに、神戸市立小磯記念美術館が開館。

吉原治良
〔よしはら・じろう
1905（明治 38）－1972（昭和 47）〕

大阪淀屋橋南詰の植物油問屋「吉原商店」の次男として生まれる。1917（大正 6）年大阪府立北野中学校（現・府立北野高校）に入学。在学中に絵に関心を深め、山本鼎の著書を手本に独学で描き始める。1923（大正 12）年関西学院高等商業学部に入学、在学中に芦屋に転居。阪神間の若手美術家グループ「艸園会」や関西学院の美術クラブ「弦月会」に所属。1928（昭和 3）年、初の個展を開催後、関西学院を退学し、父の経営する吉原定次郎商店に入社。翌 1929（昭和 4）年西宮の自社工場内にアトリエを構える。同年藤田嗣治からオリジナリティの重要性を説かれ、以後終生それを堅持する。1934（昭和 9）年、第 21 回二科展に 5 点出品・入選。1938（昭和 13）年、九室会結成に参加。1941（昭和 16）年、吉原製油株式会社取締役就任。終戦の年、疎開先の六甲山北部から芦屋に戻り、戦後の文化復興に奔走する。1954（昭和 29）年、「具体美術協会」立ち上げ。1958（昭和 33）年、具体展準備のため初渡米・初渡欧。海外の前衛美術の傾向をいちはやく収集し、戦前から戦後にわたって抽象絵画を中心にモダニズム絵画のパイオニアとして国内外の美術界に影響を与えた。芦屋で死去。

広報用画像について留意事項

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載されるときには、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。

○画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください（コピーガード対応不可の場合は、末尾「申込書」で「＊」のついた画像の中からご希望の画像をお選びください）。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報グループ」までお送り願います。

○展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報グループ」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録　媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報グループ」宛てに、1部お送りくださいますようお願いします。

●「田中千代学園芦屋校アトリエ開き・寄せ書きに描く吉原とそれを見つめる小磯」の画像をご掲載いただきました際には、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報グループ」宛てに1部お送りいただくのと同時に、下記の宛て先にも1部お送りくださいますようお願いします（媒体がウェブサイトの場合、当該ページをプリントアウトしたものをご郵送ください）。

〒150-0002　東京都渋谷区渋谷1-21-7学校法人田中千代学園
事務局総務課長兼田中千代ファッションカレッジ総務課長
武政（たけまさ）様　TEL：03-3409-2661

※「小磯と吉原のスナップ写真掲載誌送付」などと、封筒等にお書き添えいただければ先方も判別されやすく、お取り計らいどうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先

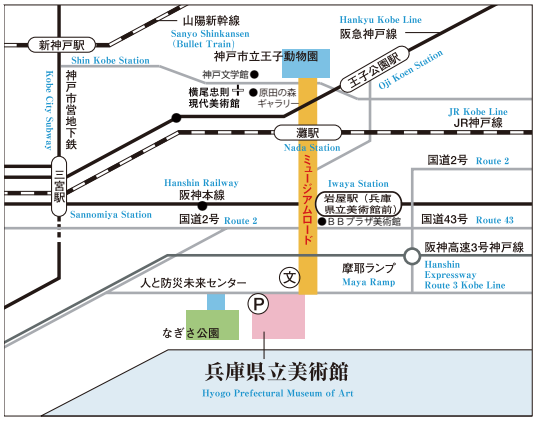
兵庫県立美術館
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0901（代表）
FAX: 078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp

取材・写真提供に関すること
営業・広報グループ
TEL: 078-262-0905（グループ直通）
FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること
担当学芸員：相良周作、鈴木慈子
e-mail: sagara@artm.pref.hyogo.jp
TEL: 078-262-0909（学芸直通）
FAX: 078-262-0913

【交通案内】

・阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
・JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
・阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
・JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
・地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
＊ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
＊団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



FAX：078-262-0903　　兵庫県立美術館　営業・広報グループ宛て

広報画像申込書

特別展「小磯良平と吉原治良」展　2018 年 3 月 24 日〔土〕～ 5 月 27 日〔日〕

※ご希望の画像の番号に〇をつけてください。後日データをお送りいたします。

	1	小磯良平《自画像》1927 年　油彩・布　東京藝術大学蔵
	2	吉原治良《黒い帽子の自画像》1928 年頃　油彩・布　大阪新美術館建設準備室蔵
	3	小磯良平《踊りの前》1934 年　油彩・布　京都市美術館蔵
	4	吉原治良《作品 3 》1934 年　油彩・布　芦屋市立美術博物館蔵
	5	小磯良平《二人の少女》1946 年　油彩・布　神戸市立小磯記念美術館蔵
	6	吉原治良《作品》1958 年　油彩・布　芦屋市立美術博物館蔵
＊	7	田中千代学園芦屋校アトリエ開き・寄せ書きに描く吉原とそれを見つめる小磯 1952 年 7 月　写真提供：学校法人田中千代学園

※上記の画像を媒体掲載されるときには、前頁「広報用画像について留意事項」をご一読ください(「田中千代学園芦屋校アトリエ開き・寄せ書きに描く吉原とそれを見つめる小磯」の画像を媒体掲載されるときには、前頁「広報用画像について留意事項」の通りご予定をお願いいたします)。

●貴媒体についてお知らせください。

〇貴社名：

〇媒体名：　（新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他）

※ウェブサイトへ掲載ご予定の場合、いずれかに〇をつけてください。　コピーガード対応　　可　・　不可

（「不可」の場合、「＊」のついた画像の中から、ご希望の画像をお選びください）

〇ご担当者名：　　〇メールアドレス：

ご連絡先　〇電話番号：　　〇FAX 番号：

〇ご住所：　〒

〇URL：

〇掲載・放送予定日：　　〇画像到着希望日：

〇読者・視聴者プレゼント用招待券：　　組　　名　様分を希望

（最大 5 組 10 名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります）